

研究部だより

秋田県立栗田支援学校

研究部 第3号

令和6年7月17日発行

今回の研究便りでは、6月28日（金）に行われた小学部の全校授業研究会について紹介します。小学部の研究テーマである『「やりたい」「できた」「もっとやってみよう」と感じ、自ら取り組もうとする子ども』の姿が授業内で実現できていたか、協議しました。授業づくりの3つのポイントで協議内容を整理したことで、次時へつながる有効な手立てを検討することができました。

6月28日（金）	小学部5年 生活単元学習「Go!5!キッチン戦隊クックリン!①」
学習内容	本単元では、自分たちで作ったじゃがいも料理を友達や身近な教師へふるまうことを目標にして、フライドポテトとスイートポテトを2グループに分かれて調理する。自分が希望した料理を作ることや、みんなで試食することを楽しみにしており、児童の活動への期待感が高く、自ら行動しようとする積極的な姿が多く見られる。工程表や分かりやすい道具の配置などを手掛かりにして、児童が自分のやる事が分かり、役割分担して調理に取り組む。
本時のねらい	担当する工程が分かり、アドバイスを意識して自分から調理に取り組む。

グループ協議での意見

どの道具をいつ使うかが分かり、自分たちで取りに行き用意していた。

繰り返しの活動で見通しをもち行動している。【自ら活動したり考えたりできる状況づくり】

自分の役割が分かり、進んで取り組んでいた。

工程表や分担表がよい。道具の置き場など、場の設定が適切だった。【自ら活動したり考えたりできる状況づくり】

友達がつぶす際にボウルを押さえたり、道具についた芋を取ってあげたりしていた。

ペアの設定がよい。自分達で活動し、自然な協力が生まれていた。【自然な協働性を生む学習集団の工夫】

小学部が求める児童の姿につながる次時へ向けた手立ての工夫

- ・繰り返しの中でも、味や道具、工程など新しい要素を取り入れていったらどうか。
- ・食べたい味やトッピングをアンケートや注文を受けて作るなど、児童の意見を反映させたらどうか。
- ・達成感を得るために、調理中に味見をし、自分たちで味を確かめ調整する時間を設定するのはどうか。

■指導助言■（飯塚 正純 教頭先生より）

- ・「キッチン戦隊クックリン」という子どもの好きなテレビ番組を模した単元設定や身近な人に料理をふるまう機会の設定が、子どもたちの活動への期待感となっていると感じた。
- ・工程表や道具の置き場など、授業づくりのポイントである「自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり」の工夫がたくさんあった。もっと教師が言葉掛けを控えても良かった。教師の働き掛けがなくても、子どもたちが自然に声を掛け合い、協力して活動する姿が随所に見られた。「やりたい」「もっとやってみよう」という子どもの思いが、様々な行動となって現れていた。それが失敗だったとしても、その経験から学び次回の反省点として児童に伝えられればよい。
- ・「できた」という達成感を味わう場面は少し足りない印象だった。以前より上手になったことやできるようになったことは、子どもたち自身も「できた!」と思えるようにしてあげたらよい。昨年度よりも成長した子どもの姿を見ることができた授業だった。